

「もりもりキャンプ」を解剖する

～ 理想的な子どもキャンプの普及に向けて ～

森と木のクリエイター科 森林環境教育専攻 早矢仕 玄

1. 背景

東京での仕事と暮らしに疑問をもち森林文化アカデミーに入学した。授業と並行し、卵や米、味噌、醤油を自分の手でつくるなかで、大地や命に触れて生きることの重要性や、暮らしを自分の手でつくる喜びを実感した。卒業後はその気づきを子どもたちに伝えていく場をつくりたいと感じるようになった。そんな折、アカデミーで15年にわたり実施されてきた「もりもりキャンプ」に出会った。



プログラムがないキャンプの中で、やりたいことを自分で決めて、イキイキと遊んでいる

子どもたちの姿に衝撃を受け、自分もこういう場を創りたいと思った。しかし、作り方に関する具体的なアドバイスや文献、マニュアルは存在しなかった。自由なキャンプの創り方のポイントを洗い出せれば、自分でもこうした場を作れるようになる上、一般にも広がるのではないかと感じた。

2. 目的

自由なキャンプを広げていくために、実践のふりかえり・アンケート・聞き取りを通して、もりもりキャンプを徹底的に解剖し、そのポイントをリスト化することを本研究の目的とした。

3. 研究の流れ

- ①基礎調査（定義/歴史/種類/もりもりキャンプ）
- ②実践・結果と考察
 - ・もりもりキャンプの要素の抽出
（振り返り/アンケート/聞き取り）
 - ・要素の分解
 - ・分類とリスト化
- ③まとめと今後の展望

4. 基礎調査

本研究では、「ある目的を達成するために、子どもや青少年を集め、野外活動や共同生活を通じて体験の場を提供すること」とキャンプを定義した。

キャンプの起源は、1861年にアメリカのコネチカッ

ト州の学校で生徒向けに行われた2週間の野営生活といわれている。日本に普及したのは20世紀の初頭で、ボーイスカウト、ガールスカウトなどの民間の青少年団体によって推進された。普及から100年以上経った今、多種多様なキャンプが展開されている。

もりもりキャンプは、学生が授業の一環として企画運営している。令和2年からはコロナ対策として食事提供型で運営、夏には、川遊びの安全管理のために、プロの自然学校スタッフに協力してもらっている。

5. 実践と結果

研究を始めるまでは、ただ漠然ともりもりキャンプはいいなと感じている状態だった。そこで3つのステップでリスト化を進めた。Step1では、①ふりかえり、②アンケート、③聞き取りの3つの手法で、キャンプの中からいいなと感じたポイントやエピソードを抽出した。Step2では、抽出した「いい部分」がどうやって成り立っているのかを考察し、構成要素へと分解していった。最後に、Step3では、分解した「いい部分」の構成要素をさらに分類して、リスト化を試みた。

4-1. Step1：もりもりキャンプの要素の抽出

① 自分自身のふりかえりで抽出した「いいな」

- ・子どもの時間に合わせて展開していく
- ・イメージしたゴールに向け仲間と一緒に走る姿
- ・縦割りの社会で遊びが伝わっていく様子
- ・素直にやりたいことを表現している姿
- ・etc…。これ以外にもたくさん見られた。

② アンケートで抽出した「いいな」

- ▼対象：キャンプ参加者と保護者30組
- ▼実施期間：2022年1月8日(土)～31日(月)
- ▼形式：Googleフォームによる自由記述方式。
- ・自分が自分のままでいいんだと思える環境
- ・ひとりの人間として対等に接し合える関係性
- ・自分の責任で自由に決めて過ごせる空間
- ・みんなと同じことをしなくてもよい雰囲気
- ・etc…。などたくさん抽出することができた。

③ 聞き取りで抽出した「いいな」

直接電話をして丁寧な聞き取り調査を行った。

- ▼対象：アンケートに回答した保護者10人
- ▼実施期間：2022年1月8日(土)～31日(月)

- ▼形式：1人30分程度の電話による聞き取り
- ・2泊3日で家族のように仲良くなる雰囲気
 - ・普段できないような体験ができる場所
 - ・友達と再会できる快適な「居場所」
 - ・やりたいことにとことん付き合ってくれる
 - ・etc… など多くの声を聴くことができた。

5-2. Step2：要素の分解

Step1で抽出した「いい部分」は50以上にも及んだ。Step2ではそれらがどうやって成り立っているのかを考察し、構成要素へと分解した。そのプロセスを、あるエピソードを例に紹介する。



いるのかを考察し、構成要素へと分解した。そのプロセスを、あるエピソードを例に紹介する。

<エピソード>

冬のキャンプ中、こんなことがあった。

「夜の森で寝てみたい」という子どもたちの突然のリクエストを受けて、一緒に準備をし、月明かりだけをたよりに山の中を歩いて登り、凍るような寒さの中、焚き火で体を温めたあと、寝袋ひとつで一晩過ごした。翌朝、山を降りてきた子どもたちの自慢気な顔が印象的だった。

この体験が成立するには一体どんな要素が隠されているだろうか？ 順番に分解していく。

<エピソードの構成要素>

- ・自分の気持ちをいえる安心な雰囲気
- ・何を言っても受け止めてもらえる状態
- ・気持ちを聴いて受け止められる大人たち
- ・月明かりで山を登ったことのある経験
- ・フィールドのことをよく把握していること
- ・天候や状況に応じた野外スキルがあること
- ・緊急時の体制が取れていること
- ・過不足ないスタッフの関わり
- ・こどもの心の状態を読む力
- ・「今ここ」や「流れ」を捉える力
- ・状況に応じてフレキシブルに動けるマインド
- ・道具、スタッフなどのリソース
- ・子どもたちの健康管理（心と身体）
- ・子どもたちが達成感を感じられる場作り
- ・etc…

たった一つのエピソードだが、予想以上の要素によって成り立っていることが分かった。そして、こうして出てきた要素は300以上にものぼった。

5-3. Step3：要素の分類とリスト化

300の要素を、①知識・スキル、②マインド、

③人、④環境の4つに分類してリスト化した。

① 知識・スキル

動植物、鉱物、気候など自然物の知識、フェノロジーの知識、見つける観察力、効果的に伝えるインタープリテーション、流れを読む力、いまここを捉える力、暮らしのスキル、自炊、ブッシュクラフトやDIY、救急法の知識とスキル、人を動かすマネジメント、コミュニケーション感覚、第六感、ファシリテーション、アイスブレイク、感情を感じる力（自他両方）、遊びや楽しみを作り出す力、固定観念にとらわれない、自由な発想力、段取り力 etc…

② マインド

受け止める関わり方、寄り添う関わり方、子どもをはじめとする人に対する愛情、自然に対する愛情、今ここを大切にすること、子どもが自分で決めることを応援する、サポートする心持ち、クレイジーさ、覚悟、継続していくこと、チャレンジ精神、過不足のない関わり方、聴く姿勢、フラットに接する、ポジティブ、明るさ、たのしさを見出す、バカになれる、なんでもウェルカムなオープンさ、率先して動く、行動で示す、肯定>否定（できる方法を考える）

③ 人

多様な人（子どもが苦手な人も）、個性的なキャラクター、メンバーとマインドを共有している、フレキシブルに対応できる人、リピーター

④ 環境

道具、備品（物理的なもの）、地域との関係性、理解、慣れた場所、緊急時の対応体制、資金、縦割り、親の理解や信頼

6. まとめ

リスト化を進めていくにつれ、ここまで大切なポイントが多岐にわたることに正直驚いた。今後自分が取り組む必要があることの膨大さに気が遠くなったが、これから現場の経験を積み重ねていくときに、意識すべきポイントや必要な知識やスキルを可視化することができた。

また、素敵な体験や印象的なエピソードの要素を「分解していくプロセス」自体が自分自身の大きな学びとなり、自由なキャンプについての深い理解へとつながった。

この手法は、自由なキャンプについてスタッフ間で共有したり、スタッフを研修したりする際にも有効な手段になるのではないかと感じた。